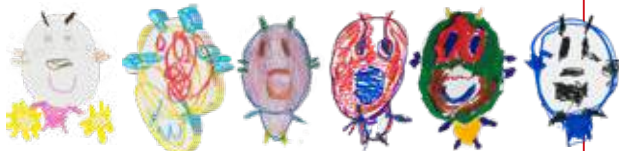




ハピネスゆうわ かいしよしき 開所式 3/30

3/30 に盛大な開所式を行いました。入居する 8 名の利用者、ご家族、そして地域や関係者の皆様に参加していただきました。たくさんの祝辞をいただき、利用者代表で堀江貴之ほりえたかしさんにスピーチをしてもらいました。この日のために、手書きのカラフルなハッピー君いずみひろし（和泉広司さんイラスト）が大集結！たくさんの職員・利用者による多様なハッピー君が式典を演出してくれました。

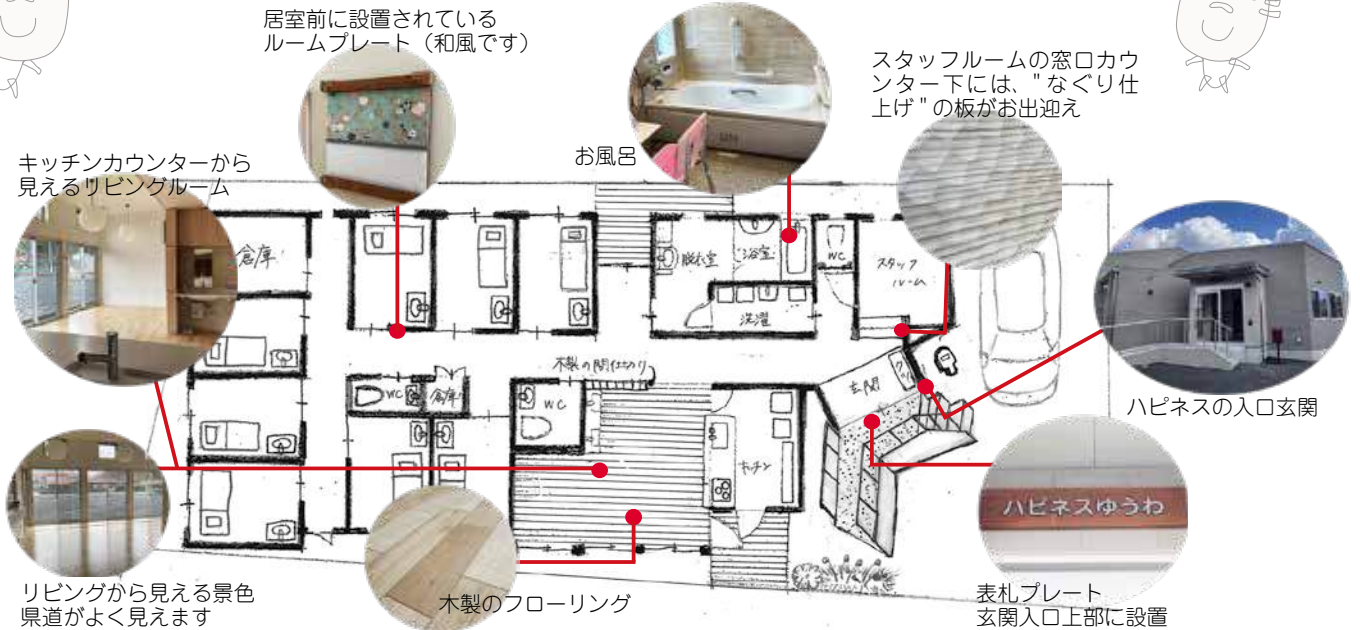


比呂さん今日は有難うございます
 堀江貴之です。
 ぼくはハピネスゆうわの自分の部屋で
 テレビカレンダール時計エレクトロニック
 国産科学書版エアコン 電卓色紙ポストマン
 サインボードの紙有ります
 紅葉饅頭珈琲飲ん含みます (のむたべる)
 御八つです (おやつです)
 堀江の担当職員永中エピソード
 楽しんでいます

ほりえたかし
 開所式での堀江貴之さんのスピーチです。
 翌日、手書きで本人に書いてもらいました。
 担当職員はまだ決まっていませんが希望を書かれました。

特集 ハピネスゆうわ

4/1にオープンしたピッカピカの『ハピネスゆうわ』です。8名が入居され、新しい生活が始まります。3/30の式典のあとお披露目されました。



入居されるご家族の思い

おはなしを
きいてみました

心配はしていません。入居できて安心しています。息子は49歳になります。30年通所を利用してきました。私がまだ元気で動けるうちに、こうやって来て準備して入ることができて喜んでます。グループホームでショートステイを利用するようになって分かったことがあります。息子は大きな荷物を用意するとショートと分かるようで、それを自宅からもって行こうとすることが何回かありました。どうも楽しみにしているのです。ショートに行き帰ってくると、親子関係にもいい距離感ができると感じています。ショートを体験してから入居することができました。淋しさもありますが、わたしも高齢になっていくので、わが子の将来の責任はもてないなと思い入居をきめました。(保護者 平 文枝)

保護者代表田中弥生さんの祝辞

河野理事長はじめ職員の方々、素敵なお家をつくって下さった工務店や関係者、市役所の方々、ご協力ご賛同して下さった地域の方々に心から感謝申し上げます。小さい頃は呼んでも振り向かない、すぐどこかへいく、どんな大人になるんだろうと暗たんたる思いをしていました。いま友和の里に毎日楽しく通っています。ショートステイも利用させてもらって、寂しがらず喜々としてお泊り準備をする彼に「おうちとホームとどちらがいい？」ときくと「グループホーム!!」と即答でした。こちらとしては少し複雑な気持ちもありますが、親離れ家離れできる子に成長したんだなとしみじみ思います。入居者8人それぞれ自分で決め自分で選んだ生活を支援してもらいながら自分らしく過ごして行ってほしいと願っています。

在宅でも施設でもない、第3の家(友和モデル)の開所を祝って

「ハピネスゆうわ」の竣工開所、誠にありがとうございます。ずいぶん前から、地域と共生事業を目指される貴法人にとって3つ目のグループホームとなりますが、中期的俯瞰にたたれたうえでの自信作だと拝察しております。少子化や地域コミュニティの衰退で個人を在宅でお世話をすることの限界や、大規模施設に馴染まない個人への配慮などから、在宅か施設かのどちらでなく、双方の良いところを取り入れた設計を心掛けました。開所後は入居者、職員、家族、地域の方々に新しい生活の萌芽となりますよう、心よりお祈りしております。(株)地域総合設計 佐伯博章

令和8年春、土台を整え一歩前へ

春を迎え、友和の里にも新しい動きが始まります。4月1日には、三棟目のグループホーム「ハピネスゆうわ」が開所し、新たな暮らしがスタートしました。利用者の皆さんにとって安心できる生活の場となるよう、職員一同、準備を重ねてきました。このように新しい取り組みが広がる一方で、私たちが大切にしていることがあります。それは、「支える土台をしっかり整えること」です。

令和8年度の事業計画、当初予算ではサービスの質の向上、人材育成、そして事務局機能の強化に重点を置き、そのための予算を確保しました。

サービスの質を高めるためには、職員の専門性の向上と、職員が一人で抱え込まない体制づくりが重要です。難しい事例に直面した際には、専門家に相談しながら支援を進めることで、より適切な支援と、安心して働ける環境につなげていきます。

また、人材育成については、利用者の高齢化や障害特性の多様化に対応するため、研修や資格取得支援などを通して、職員が学び続けられる環境を整えていきます。

さらに、法人の規模が大きくなる中で、日々の支援を安定して続けていくためには、現場だけでなく、その後ろで支える仕組みも欠かせません。事務体制の強化を進めるとともに、外部の専門家の力も活用しながら、業務の適正化と職員の負担軽減を図っていきます。

こうした取り組みは、職員と組織の成長につながるとともに、地域の関係機関との連携を通じて、地域全体の支援力を高めていくことにもつながります。利用者の安心した暮らしは、このような土台の上に成り立っていると考えています。ハピネスゆうわで始まる新しい暮らしも、こうした積み重ねの上にあります。

これからも、利用者、ご家族、職員の地域の皆さんと「共に」歩みながら、安心して暮らせる環境を整え続けていきたいと思えます。新年度のスタートにあたり、足元をしっかりと見つめながら、一歩一歩前へ進んでまいります。

(常務理事 中村 真和)



ハピネスゆうわへの入居に向けて

4月1日より、男性8名の入居者を迎え、ハピネスゆうわがスタートしました。入居に関しては、ご本人の希望、ご家族の希望を各部署で聞き取りを行い、相談支援事業所とも連携を図りながら進めてきました。それぞれの思いを尊重しながら、8名が安心して生活できる場として入居できるように検討を重ねました。さらに「4月から新しい場所で生活をする」という事を利用者の方にどのように伝えたらイメージして頂けるだろうかと考えました。はじめから新しい生活に乗り気な方もいましたがほとんどの方がピンときませんでした。職員から「ハピネスゆうわで待っているね」という声掛けをされると下を向いて逃げてしまう方もいました。幸い3月上旬には棟内の見学が可能になりましたので、入居予定の利用者さんをお連れして直接みてもらいました。「ここが〇〇さんのお部屋よ」と内見した日を境に、態度が一変された方がいます。その利用者さんはそれから会う職員に何度も「いままでお世話になりました」と言って握手を求めて、気持の変化を表現して下さるようになりました。また保護者が自宅で繰り返し新しい場所での生活をお話しされ、入居される利用者さんの気持ちの準備をして下さっていたエピソードも伺いました。そうしてスタートするハピネスゆうわでの生活です。これから8名の方の生活が充実したものになるように、職員一同お手伝いをさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

(共同生活援助部長 川久保 貴子)



□入所

昨年度は、インフルエンザと感染性胃腸炎の流行もあり、健康の大切さを改めて感じる1年となりました。そのような中で、保護者の方とのつながりを大切に、利用者の皆様の日々のご様子をできるだけ丁寧にお伝えすることを心がけてきました。インフルや胃腸炎で体調を崩された際にも、毎日ご様子をお伝えすることで、少しでも安心していただけたのではないかと思います。また、春の宴や友和まつりなどの行事では、活動の様子や、1日の流れを写真入りのパネルにして掲示し、普段のご様子を身近に感じていただけるように工夫しました。今年度も、利用者の皆様が安心して過ごせる環境づくりを大切にしながら、保護者の皆様にも安心していただけるよう、支援と情報発信に努めてまいります。(主任生活支援員 乙原 恭子)

□ホーム

グループホーム、フレンドホームではより一層利用者ファーストを常に考え業務、環境整備を整えてきました。掲示板でのお知らせ、当日の職員配置、スケジュールなど構造化による視覚支援を行い各利用者に沿った環境整備などで安心、安全を確保しています。年間行事についても少しずつ出来ることを増やし、地域行事への参加も積極的に行っています。今後は地域とより一層連携をとり、グループホーム、フレンドホーム、そしてハピネスゆうわを発信していきたいと考えています。また保護者との親睦も図り、利用者にとって幸せになれる施設を目指します。それが私たち職員の幸せです。(生活支援員 木村 信広)

□給食調理

給食調理では毎日の食事に加え月1回の行事食を作り、季節感を利用者が味わえるようにいろいろ工夫をしました。ふだん、給食以外で利用者さんと接することが少ないのですが、昨年度は日帰り旅行に初めて参加させていただきました。通所部入所部の利用者さんと一緒に観光をして、食事のフォローをしました。今年度も利用者さんに食事を楽しんでもらえるように厨房一同力を合わせていきます。

(給食調理員 松田 明子)

□通所

昨年度は体制も変わり、さらにやる事が明確となり風通しも良くなりました。利用者とも関わりやすくなり、とても仕事がしやすい一年でした。療育班ではスケジュールボードを使用し見通しのつく作業スケジュールやパーテーションを使用して構造化を進め視覚支援を行うことで利用者さんが落ち着いて過ごせる環境作りを行いました。職員は1日のスケジュールを見える化し人数が少ない状況でも対応できるようにしました。

今年度も引き続き構造化など含めて利用者さんの過ごしやすい環境づくりを行い安心して通所してもらえるように支援していきたいと思えます。

(生活支援員 原田 裕之)

□相談支援

この一年は、まさに怒涛のように過ぎていきました。多くの出会いと別れがあり、心を揺さぶられる場面も少なくありませんでした。日々、利用者さんやご家族と向き合う中で、相談支援という仕事の役割を改めて深く見つめ直す一年となりました。「もっと良い方法があったのではないか」「もっと適切なつなぎ方ができたのではないか」。振り返ると反省は尽きませんが、その迷いを次の一歩につなげられるよう、これからも学び続けていきたいと思えます。また、利用者さんの年齢や心身の変化を冷静に受け止めながら、その方の状況やライフステージに合ったサービス(福祉から介護まで)へつなぐ必要性を強く感じた一年でもありました。バトンをつなぐ“調整役”として、ご本人の意思に寄り添い、その方らしい生活を支えるお手伝いができればと考えています。(相談支援員 三村 明美)

□事務

昨年度は、日々の業務に加え、ハピネスゆうわ開設の準備で大変ながらもやりがいを感じ、非常に充実した1年でした。毎日楽しくお仕事させていただいています。今年度も引き続き、利用者さんにも職員にもより良い施設環境を作れるよう、また、利用者さんやご家族の方々に、安全安心に友和の里を長くご利用いただけるように、一生懸命サポートさせていただきます。

(事務員 佐々木 真衣)

入所部地域連携推進会議について

先日、友和の里入所部で「地域連携推進会議」を行いました。この会議は、施設と地域が力を合わせて、障害のある方が安心して暮らせる地域づくりを考える場です。利用者代表として中田勝一なかつたまさかずさんに参加していただきました。入所部での生活の様子や活動について紹介したり、逆に地域のおすすめスポットを教えてくださいと、事前に一緒に話す内容を準備してきました。中田さん、当日は少し緊張されていましたが、会議が進むにつれて表情も和らぎ、落ち着いて発言されていました。練習の成果もあってか、コーヒーを2杯飲むほどの余裕も見られました。これからも利用者さんの声を大切にしながら、地域とのつながりを深める取り組みを続けていきます。(部長 浜先 ひろこ)



通所部 | 日中活動班より



創作班

今回は、申ノアさんとウエスの納品に行きました。納品先までドライブを楽しみ、到着して荷物運びをお願いするとサッと荷物を下ろしテキパキと最後までお手伝いを頑張って下さいました。納品書を納品先の職員さんに手渡していただき、無事に納品を終えることができました。帰りの道中で感想を伺うと「楽しかった!」と良い言葉を聞くことができました。嬉しい限りです。次回も頑張りましょう。(主任生活支援員 山田 憲志)

貝通し班

今回は貝通し班の昼休みの様子についてご紹介します。昼休みは貝通し作業をする「貝通し棟」の隣にある「日中活動棟」で過ごします。日中活動棟にはパズルなどの余暇グッズやメダカの水槽があります。皆さんはパズルをしたりメダカを眺めたり、昼寝をしたりお話をしたりとそれぞれ自由に休憩されています。午後からまた集中して作業に取り組まれます。メリハリがあり切り替えのできる皆さんを心から尊敬しています。(生活支援員 冠 茜)

療育班

療育班の運動の時間にフライングディスクを始めました。フライングディスクは競技として様々な大会で採用され、友和の里でも実際に出場された方もいらっしゃるスポーツです。少しでも慣れ親しんでいただくべく、フライングディスクを実際に投げて楽しんでもらい、腕を動かす運動を行なっています。(生活支援員 濱田吉弘)

陶芸班

来年の干支である羊の石膏型の販売が始まりましたので、陶芸班の皆さんと型を選んで型流しをしていきたいと思います。どんな羊が出来上がるかお楽しみに!(生活支援員 朝川 泰貴)

トピックス

みんなおつかれさまでした 夕食会

3/20、1年間のお疲れ様の意味を込めてグループホームゆうわ、フレンドホームゆうわそれぞれ食事会を行いました。フレンドホームはわたやヘランチへ。メニューを見てあれこれ迷いながら楽しく決めました。グループホームゆうわはADOA 大野でディナーバイキング。ノンアルビールも出て、ほろ酔い気分な方もおられました。ショートステイの方も一緒に参加され色々お話をして下さいました。

(生活支援員 永中 崇裕)



みにいきました 友和市民センターまつり

3/7、友和市民センターまつりに参加させて頂きました。友和の里の作業時間に作った作品や地域の皆さんの作品が展示してあり、皆さん自分の気になるブースを熱心に見入っておられました。販売があったり、ゲームがあったり賑やかな雰囲気を楽しませて頂きました。また普段は世話人さんをしてくださる職員がスタッフとして参加されていたり、職員がご家族と遊びに来ていたりして、普段とはまた別の場所で「よく来たね～」と声をかけて頂き、入居者の皆さんも嬉しそうな御様子でした。

(部長 川久保 貴子)



いざという時のそなえ 感染症対策

先月末頃よりフレンドホーム内において、胃腸炎のような症状のある方が数名見られました。現在は無事に終息しておりますが、ご入居者、ご家族の方、関係者の皆さまには大変ご心配をおかけいたしました。フレンドホームゆうわでは年2回の感染対策研修の実施や、必要備品の常備など、日頃よりいざという時のために備えております。この度もマニュアルに沿った消毒やゾーニング、使い捨て食器の使用などで早期対応にあたり、終息に努めました。今後、マニュアルの見直しや、新



たな掲示物を作成するなど以前よりも一歩進んだ対策を整えていきます。また、平時の手洗いや、適切な場面でのマスクの着用など基本の徹底が非常に大事であると再認識することができました。

(生活支援員 香川 剛司)

グリーンウォーキング きれいになりました

3月の開所日には「グリーンウォーキング」を行いました。身体を動かして健康の促進と共に、環境への美化意識の向上を図る目的で実施しました。各班で前庭・上と下の駐車場に別かれて、火ばさみとビニール袋を手にして、職員付き添いでゴミ拾いを行いました。風に飛ばされた細かいゴミも、火ばさみを使ってゴミをつかんで、ビニール袋へ上手に入れてくれました。

(生活支援員 井場 孝行)



いろいろかい

今年度も、HSJ 活動を行えたことを労うため、^{いろいろかい}慰労会を開催いたしました。廿日市市阿品台にある「地元のごちそう自然のめぐみキッチン」のお弁当を注文し、白十字でデザートを事前に利用者様に選んで頂き注文しました。前日は雨が降っていましたが、当日の朝から快晴で、心地よい風も吹きとても気持ちの良い食事会になりました。遊歩道にある広場と入所棟の前庭に分かれました。パネルや花も飾って華やかになりました。広場ではブルーシートを敷き、お弁当やデザートを堪能された後は、横になったりとのんびりと過ごされました。前庭では、机を配置して、好きな場所に座って、ゆっくりと食事を楽しまれました。デザートを見るとニコニコされる方もおられました。

(生活支援員 西川瑠梨)



研修報告 施設見学

社会福祉法人尾道さつき会のグループホーム・生活介護事業所「ブライト」を見学させていただきました。障害特性に応じた支援や環境づくりについて多くの学びがあり、非常に有意義な見学となりました。職員の皆さまによる情報共有の仕組みや支援の統一に向けた取り組みは、友和の里での今後の支援に活かしていきたいと考えています。また、管理者の藤岡様、サービス管理責任者の向井様が活気をもって業務に取り組まれている姿が印象的で、大きな刺激を受けました。

(部長 浜先 ひろこ)



施設見学にこられました

3/23 に9名の見学者が施設見学に来られました。遠くは福山市や庄原から来所され、みなさんアート活動に関わりのある福祉施設のスタッフさんばかり。午前中事例共有会があり、それぞれ各施設での取り組みや、文化芸術という視点で利用者理解や支援のあり方を見つめる活発な議論がなされました。ショートに来ると壁いっぱい鉛筆で絵を描くという行為の人の報告があり、落ち着く環境に自分の身を置きたくてしているのかなど発言がありました。午後各施設を見学をしてもらい、最後はホームも3つご案内することができました。(地域交流支援員 ヒューガノリコ)

ハピネスゆうわ落成式にむけて

利用者職員にもお願いして、それぞれが好きな画材をつかって塗り絵をしました。塗り絵は式典のなかで使用したテープカットのテープに張り付けたり、玄関わきにはデータ印刷してもらった懸垂幕にもなったり、内覧会のホールにはガーランドして飾り付けにも使用しました。この度大活躍のハッピー君、昨年友和の里まつりで祭りを盛り上げるキャラクターとして登場しました。ハッピー君の作者は入所部の^{いずみひろし}和泉広司さんです。イラストを塗り絵用に加工させていただきました。みんなありがとう。



みんな
ごきょうりょく
ありがとう



4

ゆうわ さとぎょうじよてい 友和の里行事予定

- 4/1 水 にゅうしょしき 入所式
- 4/8 水 たいじゅうそくてい 体重測定 (入所)
- 4/10 金 はるうたげ 春の宴
こうちんしほらいび 工賃支払日 (通所 / 入所)
- 4/14 火 ゆうしょくかい 夕食会 (ホーム)
- 4/14 火 たのかい お楽しみ会 (入所)
- 4/18 土 どようびかいしよび 土曜日開所日 (通所・入所)
- 4/26 日 ほうもんびよう 訪問美容 (ホーム)
- 4/28 火 ゆうしょくかい 夕食会 (入所)
- 4/30 木 そうじのひ そうじの日 (入所)

ホーム

(これからホームに総称します)
グループホームゆうわ
フレンドホームゆうわ
ハピネスゆうわ

水曜日移動スケジュール

			1 にゅうしょしき ぎょうじしやく	2	3	4
5	6	7	8 たいじゅうそくてい	9	10 はるのうたげ ゆうしょくかい こうちん	11
12	13	14 おたのしみかい	15	16	17	18 かいしよび かいしよび
19	20	21	22	23	24	25
26 ほうもんびよう	27	28 ゆうしょくかい	29	30 そうじのひ		

- にゅうしょ (入所)
- つうしょ (通所)
- ホーム
- アーチェリー
- たいじゅうそくてい

※お知らせ 誕生日者のお知らせは今年度より割愛させていただきます。
ご了承いただきますようお願い申し上げます

新しい職員さん



生活支援員 きした こういち 木下 康一さん

新しくグループホームゆうわのスタッフの一員になった木下さん。江田島市出身で海潜りを楽しむ幼少期を過ごし、ちりめんじゃこ漁をしていたこともあるそう。前職は病院で介護職に従事。ツイストパーマがトレードマーク。この髪型は美容師にすすめられて始めたが、すっかり定着してしまい繰り返しパーマをあてているとこのこと。人混みが苦手で、この地域が自分にはあっていると話してくれました。

退職者のお知らせ

- (共同生活援助主任) すどうようこ 須藤洋子
- (入所部生活支援員) かじむらゆうま 梶村悠真
- (事務所事務員) たけうちまなみ 竹内麻奈美



ご寄付のご紹介

通所部保護者会さま

たくさんのご寄付を賜り厚くお礼申し上げます